

問 学童クラブの 定員超過への対応は

答 来年4月の改善に向け協議・調整中



新政とうかい
おちやま 辰哉 議員

問 年度当初は45名が入所不可であったが、来年度の見込みと対策はどうか。

答 来年度の見込みは、保育所の待機児童の状況を鑑みれば、今年度同様に定員を超えた利用希望が出てくると思定している。その対応策として、小学校の体育館や特別教室などを活用した「新たな子どもの居場所づくり」の検討を進めている。

具体策として、まずは本年度の夏休み期間中に白方学童クラブに在籍する5・6年生を対象として試行的に実

施し、得られた課題などを分析し、受け入れ体制を講じながら、1年間を通じた「新たな子どもの居場所づくり」を構築していきたい。なお、実施時期は、令和2年4月を目指していく。

問 1年間を通じた受け入れではなく、夏休み期間に限定した受け入れについても、検討すべきでは。

答 実際の利用状況なども勘案したうえで、「年間を通じた利用ニーズ」と「夏休み期間の一時的な利用ニーズ」とを区別して考えることも念頭に置きながら検討していく。



定員超過への対応が急がれる白方学童クラブ

Committee Report 委員会レポート

総務委員会

ひたちなか・東海 グリーンセンターを視察

総務委員会では、4月9日にひたちなか・東海グリーンセンターの現地視察を行いました。村で回収している可燃ごみは年々増加傾向である一方、資源物は減少傾向にあるとのことでした。村の最終処分場にも限界があることから、ごみ減量化を推進する必要があることを改めて確認しました。



建設産業委員会

茨城大学東海サテライト キャンパスを視察

建設産業委員会では、6月20日に白方にある茨城県量子ビーム研究センター内の茨城大学東海サテライトキャンパスの教育・研究について視察を行いました。茨城大学大学院理工学研究科量子線科学専攻は、量子線の基礎から応用まで学ぶことができる国内で唯一の専攻で、学生200名及び教員70名のうち、常時50名程度が東海キャンパスの最新鋭の電子顕微鏡やJIPARC



を活用して研究しています。委員会では、茨城大学と学生の生活環境整備や地域との交流、小学生向け体験教室等の実施について意見交換しました。